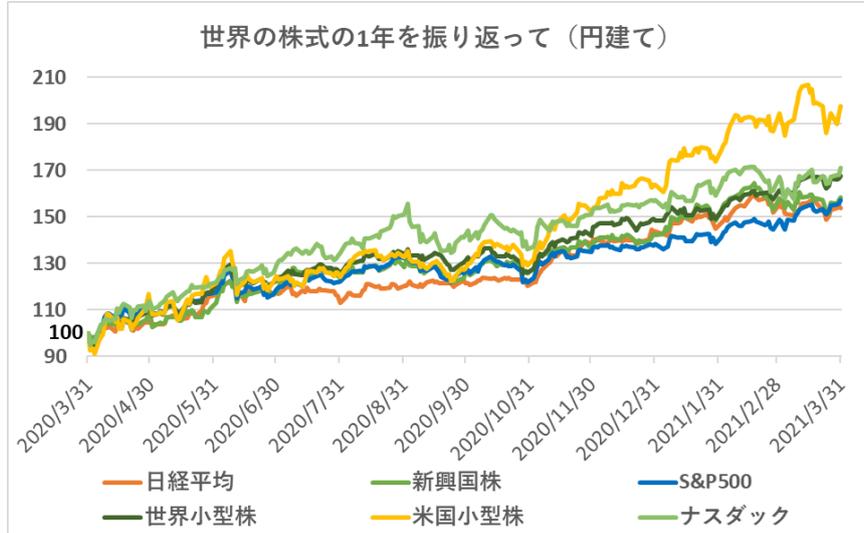


ATTENTION

コロナの急落を難なく通り過ぎる方法



この1年の世界の株式の動きは、すごいものがありました。主要ETFで見る株価は、1年を通して右肩上がり。日本株も米国株も主要指数が50%以上（日本+53%、米国+57%）も上がり、徐々に新興国株価指数も、世界的株高を追いかけるように、大幅に上昇（+58%）しました。中でもこれまでさえ無かった小型株が米国（+97%）、世界（+67%）ともに、大きく上昇しました。ハイテクのナスダック市場も大幅上昇（+71%）です。一方で、昨年3月まで1年の日米株価は、実は日経平均は-10.8%、米国S&P500（円建て）は-11.4%。この1年のマイナスは、最後の2月、3月にコロナ禍で急落したにもかかわらず、大したことはなかったのです。そして現在、米国は最高値、日本も30年ぶりの株高です。昨年の2月、3月の急落も、長い目で見ていれば難なく通り過ぎ、現在の株高を謳歌できています。以前から、これらすべての指数の株を持ったままでいれば、全部の上げを取り込めているのです。長い目で見ていること、世界へ分散投資することが、大事なことがよくわかります。

COLUMN

今年のバフェットの「手紙」-大事な言葉

今年もバフェットが、自ら率いるバークシャー・ハサウェイのアニユアルレポートで「株主への手紙」を書いてくれました。1965年から56年ずっと続けているバフェットの年中行事が、この「手紙」と「株主総会」。世界の投資コミュニティが楽しみにしています。さて、この今年の手紙の中で、私が最も参考になると感じたところを紹介しましょう。

「株式は富を生み出す。必要なものは時間の経過、内的平静、十分な分散、そして取引と手数料の最小化だ。とにかく、自分の支出は、証券会社の収入ということを絶対に忘れてはならない。ペットのサルと違って、証券会社は、ピーナッツ（はした金）には目が向かない。」バフェットの言葉には深くうなずきます。バフェットのいう「富」とは、彼の富（10兆円を優に超えた額）を見れば、どの程度かがわかります。

「時間の経過」-時間を味方にする。富を生み出すには、お金がじつくりと働ける時間が必要です。

「内的平静」-リーマンショックやコロナで急落した時に、いかに平静を保つか。二つのショックの後の回復ぶりを見ればうなずけます。

「十分な分散」-バフェットが、S&P500インデックスファンドを薦めているのは、この分散のことです。

「取引（回数）の最小化」-買ったたり売ったたりでは、利益は取れないといっています。簡単に取れそうところが、大きな落とし穴なのです。めったに取引をしないところまでいってもよいのです。

「手数料の最小化」-証券会社（銀行）や運用会社にいかに儲けさせないか。これに血道を上げるということも一つの方法です。

MARKET

（3月末）

（2月末比）

日経平均

29,178.80円 → +212.70円
(+0.73%)

NYダウ

32,981.55ドル → +2,049.18ドル
(+6.62%)

米ドル

110.75円 → +4.15円
(+3.89%)

私の書棚より

小さな進歩を追いかけよう。
毎年少しずつ変化していれば、
数十年で大きな変化が生まれる。

-ファクトフルネス ハンス・ロスリング

日本の未来の処方箋を書く(3) -現代版「船中八策」

世界のグローバル化の中で、日本が立ち遅れる傾向が強くなってきている。日本人の視点が、世代を問わず、内向けになり、グローバル感覚が弱くなっている。戦前の軍国体制の反省から、国防というと、再軍備、戦争に結び付け、それが平和ボケをもたらしている。また人権を尊重するあまり、国全体にゆりみが出ている。このままでは、日本は衰亡の道を歩むばかりだ。そこで坂本竜馬が記した「船中八策」の現代版を作ってみた。

一. 若者よ、世界に出でよ。

「東大」の時代ではない。シンガポール、インド、タイの大学の方が、よほど日本の大学よりレベルが高い。若者は、「東大」を相手にせず、外国の大学を目指すべきである。「英語が苦手」といっている場合ではない。外国の若者との交流が肝心だ。

二. 役人は公僕に徹せよ。

「役人が国を背負っている」と考えるのは大きな間違い。接待でふんぞり返っている場合ではない。権威を振りかざす役所は、愚の骨頂。発想が前例踏襲から抜け出さず、日本の再生には、役人の関与をなくすことが肝要。国際感覚も限りなく薄い。

三. 既得権益打破・規制撤廃

言い古されてかえって無理という印象まで持ってしまうが、それは政治家や既得権益を持つ者の思う壺。規制が多すぎて新規参入がろくにできない。社会には新陳代謝が必要であり、このままでは座して死を待つのみである。

四. 金融リテラシーを上げよ

日本人はお金の増やし方を知らない。お金を作る大切な機会を逸している。国は、金融業界にばかり利益が行かず、国民に果実が行くような仕組み作りで全力を投入するべきである。いつまでも小手先で済ませずに、真に顧客の利益を最優先するフィーオンリー(助言料のみ)のアドバイザーが必要だ。

五. 国防意識を強化せよ

軍備拡大から第2次大戦で敗戦に至ったトラウマが強すぎ、2度と戦争をしないという意識が先行し、日本人は国防意識が希薄になっている。それが中国や韓国に甘く見られている要因だ。領海侵犯されたら抗議するだけでなく、具体的な行動が必要だ。「こうしたら、相手はどう出るか」外交は互いの腹の探り合い。牽制が要諦だ。

六. 人権優先より、国民の義務を強化

コロナ禍で、外国で外出禁止令が続出する中、日本は強制できずに人権が優先する傾向が強い。これも、戦前の憲兵隊や治安維持法のトラウマが尾を引いているのだろうが、人権尊重はほどほどに。国民の基本的権利を守りつつ、義務の面をもっと強化すべきである。

七. 「高齢者がいい思い」から「若者が希望を持てる社会に」

給料が下がり、派遣が多くなり、労働の質が落ちている。パワハラや過重労働で、若者に自殺者が出る有様だ。さらに高齢者を支えるため、実働世代の社会保険の負担が重くなっている。政治家は、投票目当ての高齢者優先の政策ではなく、若者の未来が明るく希望が持て、やる気を出せる社会を作るべきである。

八. 日本人よ、なにくそ魂を発揮せよ！

世界で「いい子」は通用しない。バブル崩壊後の日本企業を見ていると、アニマルスピリットを感じない。負け犬根性が染みついている。日本でこじんまりしていればいいでは、じり貧になる。中国の学生と日本の学生を比べれば、そのエネルギーの差に愕然とする。もっと、なにくそ魂を発揮しなければならない。

日本はかなり危機的な状況である。この危機感を感じないところに、事の重大性を現れている。外国は、誰も教えてくれない。競争相手だ。起死回生を図れるのは、我々日本人だけである。

まかせて安心、資産運用のホームドクター

- 大切なお金を間違いない方法で運用しているのか、心配になることはありませんか。
- 退職後のセカンドライフを、お金の心配なく、ゆとりを持ってお過ごしですか。
- 仕事が忙しくて、なかなか運用まで手が回らないということはありませんか。
- 銀行や証券会社が勧めるままに、株や投資信託を購入していませんか。

金融商品の中身や手数料がどうなっているか、きちんと把握していますか。

びとうファイナンシャルサービスは、金融機関から完全独立のFP・資産運用アドバイザーです。その強みを生かし、お客様に、客観的で、公正・中立なアドバイスを提供しています。手数料が高く売りやすい商品をお客様に売っていただくのではなく、お客様にもっとも適した金融商品やお客様にベストのアドバイスを提供しています。

びとうファイナンシャルサービスは、お客様の目標や夢の実現のため、40年を超える長い経験と深い専門知識、高い倫理観をもとに、お客様の利益のみに目を向けたサービスを提供しています。たとえるなら、多くのお客様の人生という航海で、無事に目的地に到着する大型客船であり、いつもお客様の資産運用という面で健康管理をするホームドクターです。



びとうファイナンシャルサービス
代表 尾藤 峰男

びとうファイナンシャルサービス 公式HP

<http://www.bfsc.jp>

あなたの資産運用を成功に導くメルマガ！

お申し込みは <http://www.bfsc.jp/mailmagazine/>

発行者：びとうファイナンシャルサービス
代表取締役 尾藤峰男

電話：03-6721-8386
携帯：070-5567-3311 電子メール：info@bfsc.jp